

安倍首相に抗議します！

積極的平和主義反対、原発再稼働反対、日本軍の性暴力被害者に謝罪と補償を

日・独・韓の市民が集まり、訪独した安倍首相に抗議デモ

ベルリン・女の会

安倍首相の訪独に合わせて抗議集会

「Bye Bye AKW! Sayonara Genpatsu!」。4月30日、抜けるようなベルリンの青空の下、脱原発を訴えるリズムカルで歯切れのよいシュプレヒコールが、メルケル首相の仕事場である首相府の前で響き渡りました。ドイツ語のAKWは原子力発電所の略語です。安倍首相はゴールデン・ウィークを利用して欧州6ヵ国を訪問、ベルリンはその最初の訪問地でした。「ベルリン・女の会」（以降「女の会」）は安倍首相に相応しいおもてなしをすべきだと考え、抗議集会を行いました。約50名が集まったこの集会を、日本、ドイツ、中国のメディア一社ずつが、短くですが取り上げてくれました。

山ほどの抗議を横断幕とポスターに込めて

安倍首相がベルリンに来ることを私たちが知ったのは4月上旬のことでした。この機に何もしない手はない、と直感的に感じたものの、手続き上の問題をクリアできるのか、「女の会」が単独で行なって人が集まるのかという不安がありました。しかし会員の安倍政権への怒りは大きく、集会決行が決まりました。原発の再稼働、特定秘密保護法の制定、集団的自衛権行使の容認——このままでは日本が増々危険で息苦しい国になってしまうと私たちは危惧しています。国内の高支持率に驕り高ぶり、隣国の人びとの心を平気で傷つける無神経さ、国際舞台で真っ赤な嘘をつく破廉恥さなど、安倍首相の言動も一国の首相にあるまじきものです。異議を唱えたいことは山ほどあるので、横断幕のメッセージは逆にシンプルに、「安倍首相に抗議します」と日独両方の言語で書くことにしました。様々な抗議メッセージを書いたポスターをその周りで掲げれば、何に抗議しているか一目で分かるという趣向です。メンバーの中には絵やデザインの得意な者もいて、なかなか個性豊かなポスターができました。

安倍政権の一つの政策だけに反対する人にも参加してもらうのがこの集会の狙いでした。例えばドイツで一番関心の高い原発問題。嬉しいことに、「女の会」と交流のあるドイツの反原発団体や在ベルリン日本人の脱原発グループのメンバーが、小道具や独自の横断幕を持って参加してくれました。中

には浴衣姿のドイツ人女性もいて、通りがかりの人たちの目を引きました。20年来、日本軍の性暴力被害者の支援運動を共に行なっている韓国系女性グループの人たちも、ホルモンのプラカードを担いで駆けつけてくれました。ITに弱い私たちに代わって、集会の呼びかけをSNSで広めてくれた人たちのおかげで、遠方からの飛び入り参加もありました。年齢も国籍も様ざまな人たちの集まりでしたが、安倍首相に抗議の声を届けたいという気持ちは一つで、首相を乗せたリムジン

が前を通りすぎた時、シュプレヒコールの声は最大音量に達しました。安倍首相が首相府に滞在した2時間の間、断続的に「Bye Bye AKW! Sayonara Genpatsu!」と音頭をとりながら抗議を続けましたが、その声は首相府内の記者会見場まで届いていたそうです。それが不快だったのでしょうか、首相府から出てきた安倍首相の車は、私たちが避けるかのように急遽ルートを変更し、次の目的地に向かっていきました。こんな所にも都合の悪いことは

見ざる、聞かざるという安倍政権やそれを支える取り巻き連中の体質が伺えます。

集会に協力的だった警察や内務省の対応

ところで、今回の集会を実施するにあたって、申請窓口である警察や内務省の柔軟な対応が印象的でした。首相府前は集会制限区域で、一週間前までに日時を含めて集会の届け出が必要です（通常は48時間前）。ところが申請期日にまだ首脳会談の詳細は不明でした。その事情を窓口の説明すると、「とりあえず会談が行なわれそうなすべての日を申請し、詳細が判明してから日時を限定すればよい」と言ってくれたのです。思わず耳を疑ってしまいました。集会当日、立ち会った警察

官も、プラカードを街灯にくくり付けるのを手伝ってくれるなど大変協力的でした。このように恵まれた環境があるのですから、ベルリンからも機会あるごとに「反安倍政権」の声を挙げていきたいと思います。



ホルモンのプラカードを赤白テープで街灯に固定する警察官（撮影：梶村太郎）



横断幕を飾る「安倍首相はもうつきた」「靖国解体」といったポスター（撮影：梶村太郎）